

「青少年のための科学の祭典2022」八戸大会報告書

- 主催 「青少年のための科学の祭典2022」八戸大会実行委員会
公益財団法人日本科学技術振興財団
八戸市、八戸市教育委員会
- 後援 文部科学省、青森県教育委員会、全国科学館連携協議会、全国科学博物館協議会、NHK、日本物理教育学会、一般社団法人日本生物教育学会、日本地学教育学会、日本基礎化学教育学会、一般社団法人日本科学教育学会、一般社団法人日本理科教育学会、一般社団法人日本地質学会、一般社団法人日本生物物理学会、一般社団法人日本物理学会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本アイソトープ協会、一般財団法人日本私学教育研究所、公益社団法人日本植物学会、公益社団法人日本動物学会、公益社団法人日本天文学会、公益社団法人日本工学会、一般社団法人電気学会、日本エネルギー環境教育学会、公益財団法人青森県私学協会、八戸市小学校教育研究会、八戸市中学校教育研究会、八戸工業大学、株式会社デーリー東北新聞社、東奥日報社、朝日新聞青森総局、読売新聞青森支局、RAB青森放送、株式会社青森テレビ、青森朝日放送株式会社、株式会社八戸テレビ放送、株式会社エフエム青森、コミュニティラジオ局BeFM、公益財団法人環境科学技術研究所
- 会場 八戸市福祉公民館、福祉体育館 （〒031-0001 八戸市類家4丁目3-1）
- 開催日時 令和4年 8月6日（土） 9：45～16：00
8月7日（日） 9：00～15：00
- 来場者数 来場者数（2日間のべ人数）
8月6日（土） 260人
8月7日（日） 203人 合計 463人
- 参加スタッフ数（2日間のべ人数）
演示講師 128人
実行委員・スタッフ 45人
ボランティア 145人 合計 318人

□実施内容

一人でも多くの青少年に、科学のおもしろさと不思議さを体験してもらい、興味・関心を深めてもらうことを目的に、平成8年度から継続開催してきた「青少年のための科学の祭典」八戸大会は、今年度26年目を迎えた。

今年度は、令和4年8月6日（土）・7日（日）の2日間にわたって開催し、全部で23の演示ブース、ワークショップを開設した。公共施設・団体・地域企業、学校関係者、地域団体等、多くの方々から協力いただいた。

また、新型コロナウイルス感染症予防対策をとりながら規模を縮小しての開催となったが、来年度以降

も状況を見ながら継続したいと考える。

アンケートについては、来場者の約50%からアンケートを回収することができたので、来年度以降も回収率が高まるように工夫したいと考える。

□出展数 23ブース出展

□出展タイトル一覧

1. 超低温の世界をのぞいてみよう！
2. 電波は暮らしの必需品
3. ガス管を使って万華鏡を作ろう
4. あら？不思議？熱で縮むプラスチック
5. どんぐりごまの作り方
6. 簡単押し花
7. エコクラフト 花のコサージュ
8. キラキラ棒を作ってみよう
9. 缶詰を作ろう！！～未来へのメッセージ～
10. 戻ってくるおもちゃ“紙コップカムバック”を作ろう
11. 電気を身近に感じてみよう！
12. スピードガンを使って投球スピードを計測しよう
13. だれでもつくれる！アイロンビーズ
14. 練りはみがきで動く船
15. コイルのトンネルに電車を走らせよう！
16. 空飛ぶ輪
17. 空気大砲で遊ぼう
18. 手回し発電機でスロットカーを走らせよう
19. 芝生小僧の作り方
20. いろいろな野菜にふれてみよう
21. もこもこカルメ焼き
22. ぷにっとカラフルオブジェ
23. スライムを作ってみよう

□製作物

- ・チラシ：A4版／カラー／製作部数：13,000枚
- ・実験解説集：A4版／表紙カラー／30ページ／製作部数：1,000部

□広報活動

- ・八戸市視聴覚センター・児童科学館HPに開催案内掲載
- ・八戸市内の小学校と特別支援学校小学部にチラシ配布
- ・青森県内報道機関に情報提供
- ・デーリー東北新聞社取材（8月8日朝刊掲載）、東奥日報社取材